

# 巨星墜つ (津田禎三先生を偲んで)



笹山 利雄

津田禎三先生が平成 27 年 11 月 24 日に亡くなられた。享年 96 才であった。

奇しくも、一水会が創立 100 周年を迎えて大規模な祝賀行事を行い、また先生が所主であったなにわ橋法律事務所が同じく創業 100 周年を迎えて、150 人もの顧客等を集めて祝賀記念パーティを挙行された同じ年のことである。

私は、昭和 50 年、なにわ橋法律事務所の前身である津田総合法律事務所にイン弁として入所を許された。

初めてお会いした津田先生は、茫洋というか、大きく掴み所がない人であった。どんな場面においても焦ったり慌てたりすることが全くなかった。それはどうやら津田先生の戦争体験と無関係ではないように思われる。先生とお付き合いのあった方はご存知のことであるが、先生は戦場で三度も死に瀕したことがあったという。

最初は、海軍少尉として乗っていた飛行艇が海へ墜落して、乗っていた 30 名のうち半分が死んだ。2 度目は、建物に爆弾が落とされてその下敷きになったが、柱と柱の間に挟まって助かった。極めつきは、乗っていた駆逐艦がフィリピン沖でアメリカ軍の飛行機に撃沈され、その際、爆弾によって負傷した（その時の鉄の破片 7 個は、亡くなるまで左右大腿に残っていた）。先生は僚艦に助けられたが、駆逐艦の乗組員の半数以上は亡くなったとのことである。

私がお世話になった 5 年間、津田先生は夜ともなると、ほとんど毎日北新地へ出掛けられた。その翌日証人調べがあってもである。一体訴訟の準備はいつされるのであらうと不思議に思っていたが、その疑問は間もなく解けた。福山での証人尋問に同行した際、酒を飲んだ深夜、なんと記録を取り出し、読み始められたのである。

津田先生は、証人尋問、特に反対尋問を楽しんでおられたが、やはりそのためには用意周到な準備があったのである。

そののんびりした性格で、先生が一水会の会合で壇上に立った時の話がなかなか終わらず、司会者をヤキモキさせたし、事務所では予約した客を 1 時間以上待たせて「いらち」の私を心配させる一面もあったが、1 時間以上待った客は怒りもせず、先生の話聞いて満足して帰途につくのを見て、その説得力、交渉術に感服させられた。

反対尋問と並んで先生が興味を持たれたのがその交渉術である。他の弁護士が同じ言葉で交渉しても、決して先生のように相手を説得できないのはなぜであったか。ひところ先生は、交渉術の本を出したいと言って準備を進められていた。その一環として「ユダヤ式交渉術」を書いた私の友人（東京の弁護士）を紹介してほしいと依頼され、会う段取りをしたこともある。残念ながら本は出版されないまま終わったが、その交渉術の精神は、ご子息の津田尚廣先生に継がれていることと思う。

津田先生を「ていさん」と呼んで親しかった中坊公平先生、甲子園球児（投手）であったことが自慢の山本次郎先生が先に亡くなられ、津田先生は寂しかったことであろう。

しかし、先生は北野中学の同級の方々（二回落第したので同級は 3 期にわたる）、弁護士同期（こちらは 15 期のみ）その他の先生方、大林組をはじめ顧客先の方々とは親しく交流を深められ、悔いのない人生を送られたことと信じている。

ゴルフでは、80 台で廻られることもあったが、先生が本当に好きだったのはゴルフなんかではなく、人と仕事だったと思う。

津田先生、御尊父の津田勅先生から引き継がれたなにわ橋法律事務所は、津田尚廣先生が立派に継がれ、ますます発展しています。もう何の心配もないので、ゆっくりお休み下さい。

多くの人を愛し、多くの人に愛され、そして尊敬された津田先生のご冥福をお祈りしています。